

「水問題を考える市民の会」の宮野と申します。
今回、このような場を設けていただきありがとうございます。

私からは、給水量、つまり佐世保市民がどれくらい水を使用しているのかということと、ため池の活用について少しお話させていただきたいと思います。

佐世保市水道局は、佐世保市で安定的にとれる水は 6 つのダムと 4 つの取水場から取水する 77,000 トンしかないと言っていて、これを安定水源と呼んでいます。川から 28,500 トンを取水していますが、水量が一定しないとして不安定水源であると規定しています。そして、将来的に水需要が 11 万トンを超えるので、あと 4 万トンの石木ダムが必要だと言っています。

しかし、本当にそうなのでしょうか？

日本の人口は減少の一途をたどっていますし佐世保市の人口も減少しています。佐世保市政策企画課によると、2050 年の佐世保市の将来推定人口は、20 万人を割り 19 万 22 人と推定されています。あと 4 万トンもの水が必要になるような人口増加はありません。

佐世保市水道局は毎日、前日に市民が使用した水の量を HP 上で公開しています。私たちは、この数字を記録して 1 ヶ月の給水量と一日平均給水量を算出しています。それをまとめて 1 年間の平均給水量を出しているのですが、これはあくまで個人が銘々でやっていることで、公的な数字ではありません。そこで水道局が出す上水の実績値を毎年、情報公開で手に入れています。

丁度、先週、水道局から令和 3 年度の上水の実績値が送られてきましたので、正確な数字をお知らせできるとと思います。昨年（令和 2 年度）の一日平均給水量つまり佐世保市民が一日に使用した水の量は 64.857 トン、一日最大給水量は 69.813 トンで、安定水源の 77,000 トンからおつりが来ます。これは、昨年だけが特別だったということではありません。

一昨年（令和 1 年度）の一日平均給水量は 65.933 トンで、一日最大給水量は 71.846 トン、こちらも安定水源 77,000 トンからはおつりが来ます。こちらの数字も水道局から手に入れた実績値であり、私たちが捏造した数字ではありません。

ちなみに、今年 4 月から 10 月までの平均給水量は 64.433 トン、最大給水量は 6 月 9 日に記録した 70.648 トンです。こちらは、水道局の HP で公開されている数字を記録したもので、確定した数字ではありませんが、1 年間の実績値も、おおよそ同じような数字ではないかと思います。

ですから、佐世保市民は、現在、水道局のいう安定水源で十分賄える量の水を使用しているということになります。

それでもどうしても水不足が心配ということであれば、ため池を活用することができると思います。

佐世保市には1,200のため池があります。
このうち旧佐世保市内には1万トンを超えるため池が52もあります。
中にはダム以上に大きなため池もあり、郷美谷池は総貯水量が45万トで、25万トの転石ダムをはるかに凌ぐ大きさです。

水道局は、平成6年～7年の渇水以後、市内にある14のため池の管理組合と18のため池について分水協定を結んでいます。

分水協定とは、佐世保市に水不足が生じた場合、これらのため池に余剰水がある場合、ため池の原水を水道用水として分けてあげるという協定ですが、この分水協定をもう少し増やしておけば何の心配もいらないのではないのでしょうか？

農業人口も減り、耕作放棄地も増え、ため池を管理する人も高齢化し管理できないため池も多くなっています。ため池の決壊事故なども起こっています。

将来的には、市がため池を管理できるようになればと思います。

多額の税金を投入して必要性の乏しいダムを作るより、協定を結ぶだけで水の心配がなくなるため池の活用をぜひ進めていただきたいと思います。